■堀辰雄 小説家。〈戦時体制〉下、肺結核をかかえて「聖家族」「風立ちぬ」など傑作続け、〈敗戦〉後まもなく早世。

ほりたつお

日露戦争始・1904＝ 東京平河町で裁判所に勤務する父の妾の子に生れた。

日露戦争終・1905＝ 1歳： 幼時期に父のもとを離れ、東京下町で育ち、

アヲキ 創刊・1908＝ 4歳： 母が彫金師と結婚。以後、養父を実父と思いこんで過す。

明治天皇没・1912＝ 8歳：

大正政変・・・1913＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝17歳： 府立三中を卒業、一高へ進む。雑誌に「清く寂しく」を発表。

水平社結成・1922＝18歳：

高校時代から室生犀星や芥川竜之介の知遇を得、校友会誌にエッセーや詩を発表。また新しいフランス文学を意欲的に吸収した。

治安維持法・1925＝21歳： 卒業し、東京帝大国文科に入学。軽井沢に2ヶ月滞在、その体験「ルウベンスの偽画」が後の源泉になる。

日本時代始・1926＝22歳： 中野重治らと『驢馬』を創刊。詩やエッセー、フランスの訳詩を次々発表。神西清らと『箒』を創刊。

金融恐慌・・・1927＝23歳： 「ルウベンスの偽画」を発表。竜之介の自殺に衝撃を受ける。「芥川竜之介全集」の編纂に従事。

共産党事件・1928＝24歳： 肋膜炎で死に瀕し、休学。軽井沢に行く。『驢馬』も終刊。

世界恐慌・・・1929＝25歳： 『文芸春秋』に「不器用な天使」を発表。東大国文科を卒業。川端康成らと『文学』を創刊(翌年終刊)。

海軍軍縮条約1930＝26歳： *「不器用な天使」を刊行。「ルウベンスの偽画」(定稿)を発表。芥川の死やみずからの恋愛体験を素材にラディゲ風の心理分析を施した「聖家族」で文壇に登場。啞血して療養。以後、軽井沢滞在が多くなる。病床でブルーストに傾倒。「回復期」を執筆、発表。

満州事変・・・1931＝27歳： 健康は相変わらずであったが、「燃ゆる頬」「ブルースト雑記」「麦藁帽子」を発表。「聖家族」を刊行。

五一五事件・1932＝28歳： 軽井沢で矢野綾子を知る。「美しい村」に含まれる各章を相次いで発表。

国際連盟脱退1933＝29歳： 軽井沢で矢野綾子を知る。「美しい村」に含まれる各章を相次いで発表。

帝人疑獄事件1934＝30歳： 軽井沢に傾倒。綾子と婚約。「小説のことなど」「物語の女」を発表。三好達治らと『四季』を創刊。

芥川直木賞始1935＝31歳： 綾子とともに軽井沢のサナトリウムに入るが、その年のうちに綾子が死去。

二二六事件・1936＝32歳： 「風立ちぬ」を書き始める。「鎮魂曲」を発表。このころから日本古典に親しむ。

日中戦争始・1937＝33歳： 「風立ちぬ」の各章にあたる部分を次々発表。軽井沢で加藤多恵を知る。「かげろふの日記」を発表。

健保+総動員 1938＝34歳： *「風立ちぬ」を完成、作家的位置を確かにした。多恵と結婚、軽井沢に居を構える。養父が死去。

第二次大戦始1939＝35歳： 「幼年時代」の連載。「巢立ち」「ほととぎす」を発表。折口信夫の「源氏物語全講会」を聴講。

大政翼賛会・1940＝36歳： 「姥捨」「野尻」を発表。立原道造が生前に編んだ「堀辰雄詩集」が刊行される。

日米開戦・・・1941＝37歳： 代表作「菜穂子」を発表。「物語の女」続編の構想が結実。大和方面を旅行。「曠野」を発表。

・・・・・・1942＝38歳： *「菜穂子」により第一回中央公論社文芸賞。

創価学会検挙1943＝39歳： エッセー集「大和路・信濃路」を連載。京都、奈良旅行。

年金+総武装 1944＝40歳： *啞血して絶対安静。

敗戦・・・・・・1945＝41歳：

新憲法公布・1946＝42歳： 以後、病臥生活に入る。自選の「堀辰雄作品集」の刊行開始。『高原』を創刊、『四季』を再刊するも、この間、病が重くなり、とも終刊に追い込まれる。

三大事件・・・・1949＝45歳：

朝鮮戦争始・1950＝46歳： 「堀辰雄作品集」が毎日出版文化賞となって、

独立回復・・・1951＝47歳：

TV放送始・・・1953＝49歳： 没した。